

第76回国民体育大会（2021三重）宮城県代表選手選考要項

1 大会期日 : 2021年9月30日（木）～10月4日（月）まで（5日間）

2 会場 : 三重交通G スポーツの杜 伊勢陸上競技場

3 種別（種目）及び参加人員

(1) 監督2名、選手29名（男子19名以内、女子19名以内）計31名以内で編成し、種別、種目は表1のとおりとする。

監督、選手の兼任は1名とし、その場合は参加選手を30名とすることができる。

表1 2021三重国体競技種別・種目一覧

	種別	種目	共通種目	混合種目	
男子	成年	100m 300m 800m 5000m 110mH 10000mW 走高跳 走幅跳 砲丸投 ハンマー投 やり投	4×100mR	男女混合 4×400mR	
	少年A	100m 300m 800m 5000m 300mH 棒高跳 ハンマー投			(共通) 110mH 5000mW 走高跳 三段跳 円盤投
	少年B	100m 3000m 走幅跳 砲丸投			
女子	成年	100m 300m 800m 5000m 100mH 3000mSC 5000mW 走高跳 棒高跳 走幅跳 ハンマー投 やり投	4×100mR	男女混合 4×400mR	
	少年A	100m 300m 3000m 300mH 走幅跳 ハンマー投			(共通) 3000mW 円盤投 やり投
	少年B	100m 800m 100mH 走幅跳 砲丸投			

(2) 参加は、下記の出場制限によるものとする。

ア 1種目1名、同一人の出場は2種目までとする。ただし、リレーは除く。

イ 本要項6に定める予選会に出場しなかった種目には出場できない。ただし、1種目のみ出場し、その種目の代表となった者は、予選会に出場しなかった他の1種目にも出場できる。

ウ 4×100mリレーの編成は、男女とも成年、少年A、少年Bから各1名、残りの1名は成年、少年A、少年Bのいずれかの種別から選出するものとし、計8名以内で申し込むこと。

エ 男女混合4×400mリレーの編成は男女2名ずつとし、合計8名以内で申し込むこと。男女ともに少年Aもしくは少年Bから各1名、残りの男女1名は成年、少年A、少年Bのいずれ

れかの種別とする。

- オ リレーに出場する者は、予選会のどの種目であっても参加していれば出場できる。
- カ 成年女子800m・成年女子走高跳・成年女子棒高跳には、少年女子Aからもエントリーできる。ただし、エントリーできるのは、成年女子又は少年女子A、いずれかの1名のみとする。
- キ 成年男子10000m競歩の出場者は、5000m競歩の予選会を経た者でもよい。少年男子共通5000m競歩、成年女子5000m競歩の出場者は、3000m競歩の予選会を経た者でもよい。少年女子共通3000m競歩の出場者は5000m競歩の予選会を経た者でもよい。
- ク 少年男子B3000mの出場者は、1500mの予選会を経た者でもよい。
- ケ 成年男子300m・少年男子A300m・成年女子300m・少年女子A300mの出場者は、200m、400mの予選会を経た者でもよい。
- コ 少年男子A300mハードル・少年女子A300mハードルの出場者は、400mハードルの予選会を経た者でもよい。

4 競技上の規則及び方法

2021年度日本陸上競技連盟競技規則によるもののほか、下記の要領で実施する。

- (1) 少年男子A300mハードルの、ハードルの高さは0.914mとする。
- (2) 少年男子Aハンマー投げのハンマーの重さは、6.000kgとする。
- (3) 少年男子B砲丸投の砲丸の重さは、5.000kgとする。
- (4) 少年男子共通110mハードルの、ハードルの高さ／ハードル間は、0.991m／9.14mとする。
- (5) 少年男子共通円盤投の円盤の重さは、1.750kgとする。
- (6) 少年女子A300mハードルの、ハードルの高さは0.762mとする。
- (7) 少年女子Aハンマー投のハンマーの重さは、4.000kgとする。
- (8) 少年女子B100mハードルの、ハードルの高さ／ハードル間は、0.762m／8.500mとする。
- (9) 少年女子B砲丸投の砲丸の重さは、4.000kgとする。
- (10) 少年女子共通円盤投の円盤の重さは、1.000kgとする。
- (11) 少年女子共通やり投のやりの重さは、600gとする。

5 参加資格、所属都道府県及び選手の年齢基準

(1) 監督・選手は、日本陸上競技連盟登録者であること。

(2) 参加資格・所属都道府県

総則5-(1)(2)に定めるもののほか、次による。

- ア 日本国籍を有しない者については、学校教育法第1条に定める学校に在籍する生徒に限り、少年の種別に各都道府県、男女1名以内で参加することができる。
- イ 監督は、公益財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者制度に基づく公認陸上競技コーチ3、公認陸上競技コーチ4（以上、JAAF公認コーチ）、または公認陸上競技コーチ1、公認陸上競技コーチ2（以上、JAAF公認ジュニアコーチ）の資格を有する者とする。なお、監督、選手兼任の場合も同様とする。

ウ ふるさと選手制度については、第76回国民体育大会実施要項総則5（別記1を含む。）の規定による。

（別記1抜粋）

1) 成年種別の選手は、下記のいずれかを拠点とした都道府県から参加することができる。

ア 居住地を示す現住所

イ 勤務地

ウ ふるさと

2) 「ふるさと」とは、卒業中学校または卒業高等学校のいずれかの所在地が属する都道府県とする。

3) 「ふるさと選手制度」を活用し参加を希望する選手は、予め所定の方法により「ふるさと」を登録しなければならない。

なお、一度登録した「ふるさと」は変更できないものとする。

4) 「ふるさと選手制度」の活用については、原則として、1回につき2年以上連続とし、利用できる回数は2回までとする。

（3）選手の年齢制限

ア 成年の部に参加する競技者は、2003年4月1日以前に生まれた者とする。

イ 少年Aの部に参加する競技者は2003年4月2日以降2005年4月1日までに生まれた者とする。

ウ 少年Bの部に参加する競技者は、2005年4月2日以降に生まれた者とする。

（ただし、中学生は、3年生のみ参加できる。）

6 選考方法

本大会に準じて本要項3に定めた方法により、代表を選考する。2021年度の予選会、参考競技大会を以下に設定し、本要項7に示す選考基準に則り選考する。

【予選会】

- ・宮城県陸上競技選手権大会（以下、宮城県選手権）
- ・宮城県高等学校総合体育大会陸上競技大会
- ・宮城県中学校総合体育大会陸上競技大会
- ・全日本中学校通信陸上競技宮城県大会

【参考競技大会】

- ・日本陸上競技選手権大会（以下、日本選手権）
- ・全国高等学校総合体育大会陸上競技大会（以下、インターハイ）
- ・日本学生個人陸上競技選手権大会
- ・各地域実業団陸上競技選手権大会
- ・各地区学生陸上競技選手権大会（地区インカレ）
- ・東北高等学校陸上競技大会
- ・東北中学校陸上競技大会
- ・全日本中学校陸上競技選手権大会

7 選考基準（優先順位）

- (1) 種別ごとに選考基準を設け、優先順位に則り選考する（表2）。ただし、成年男子300m・少年男子A300m・成年女子300m・少年女子A300m・少年男子A300mハードル・少年女子A300mハードルは別に選考基準を設ける（表3）。

表2 選考基準（1）

種別	成年	少年A、少年共通	少年B
選考基準	1) 日本選手権において入賞する（複数の場合は上位）。 2) 有効期間内に標準記録を突破し、宮城県選手権において種目種別最上位となる。	1) 日本選手権において入賞する（複数の場合は上位）。 2) インターハイにおいて入賞する（複数の場合は上位）。 3) 有効期間内に標準記録を突破し、宮城県選手権において種目種別最上位となる。	1) 有効期間内に標準記録を突破し、宮城県選手権において種目種別最上位となる。
資格記録有効期間	2021年1月1日～2021年8月20日までの公認記録		

表3 選考基準（1）300m・300mH

種別	成年男女300m・少年男女A300m	少年男女A300mH
選考基準	1) 有効期間内に300mにおける標準記録を突破し、宮城県選手権において種目種別最上位となる。 2) 200m、400mにおいて有効期間内に標準記録を突破し、宮城県選手権において種目種別最上位となる（複数の場合は、予選会および参考競技会の結果から総合的に判断する）。	1) 有効期間内に300mHにおける標準記録を突破し、宮城県選手権において種目種別最上位となる。 2) 有効期間内に200m、400m、400mHにおける標準記録を突破し、宮城県選手権において種目種別最上位となる（複数の場合は、予選会および参考競技会の結果から総合的に判断する）。
資格記録有効期間	2021年1月1日～2021年8月20日までの公認記録	

- (2) リレーに出場する競技者について、リレーの特性を考慮し強化委員会が内定者を決定する。
 (3) 資格記録および予選会、参考競技会の結果から総合的に判断し、強化委員会が推薦する選手を内定とする。

特例措置

第76回国民体育大会実施要項総則別記4【トップアスリーの国民体育大会参加資格の特例措置】

より、以下の条件のいずれかを満たす者は予選会が免除される。

- 1) 第32回オリンピック競技大会(2020年・東京)に参加した者。
- 2) 2021年4月30日時点で、下記のいずれかに該当し、日本陸上競技連盟が本特例の対象として認めた者。
 - ア JOCアスリートプログラム強化指定選手
 - イ 国内ランキング上位10位以内の者
 - ウ 日本陸上競技連盟強化指定選手

8 標準記録(別紙1)

9 選手決定の流れ

- | | |
|----------|------------------------|
| 7月13日(火) | 第1次選考会議 |
| 7月中旬(予定) | 第1次内定選手の通知(宮城陸上競技協会HP) |
| 8月2日(月) | 第2次選考会議 |
| 8月上旬(予定) | 第2次内定選手の通知(宮城陸上競技協会HP) |
| 8月21日(土) | 最終選考会議 |
| 8月下旬(予定) | 宮城県選手団の発表(宮城陸上競技協会HP) |

10 その他

- (1) 選考対象選手と強化委員会が判断した競技者に対して、宮城県選手権期間中に個人調書の作成を依頼する。個人調書の作成をもって、国体への参加意思があるものと判断する。個人調書は国体選考以外の目的では使用しない。
- (2) 選考会議の結果により、内定となる競技者(所属先)には8月21日(土)までに強化委員会より連絡があるが、それ以外の競技者(個人調書作成者)への連絡は行わないので、下記連絡先へ問い合わせるか、宮城陸上競技協会HP上での発表を確認すること。
- (3) 故障などのため、本大会で競技力が発揮できないような事態が生じた場合は代表を取り消す場合がある。
- (4) 決定選手は、合宿・練習会に参加し本大会へ向けて準備をすること。

《問い合わせ先》

一般財団法人 宮城陸上競技協会強化委員会
強化委員長 宮崎 利勝(仙台大学)
TEL&FAX 0224-55-1205(直通)
E-mail ts-miyazaki@sendai-u.ac.jp